

山形南高(山形中・高) 東京同窓会報

第十一号
 平成26年10月18日発行
 千代田区平河町2-1-3
 山形県東京事務所内
 山形南高東京同窓会事務局
 齋藤 常男
 編集人代表 小松 栄三郎



山形南高同窓会の 永遠の発展をめざして



山形南高東京同窓会
会長 齋藤 常男

山形南高東京同窓会再結成16年目を迎えることになりました。ゼロからの出発でしたが、ここに至るまで会員の多くの方々のご協力と叱咤激励、役員の方々の犠牲的精神の発揮と献身的な取り組みがありました。この人々の支援と働きがあったから、東京同窓会は存続し、発展してきました。衷心よりお礼を申し上げます。東京同窓会の目的は、会員相互の親睦と母校への貢献であります。東京同窓会は、親睦を深め、総会を成功させるため、次のような呼びかけを行ってきました。

1 もう一度高校生になってみませ

- んか!
 - 2 南高時代を思い出し、校歌・応援歌を歌ってみませんか!
 - 3 校長の南高便りを聞いてみませんか!
 - 4 友人や卒業生の元気な姿を見ませんか!
 - 5 貴方の近況を総会の場で話してくださいませんか!
- 呼びかけは、結束こそ同窓会の財産と位置づけ、仲間意識の高揚を図るために、さまざまな機会をとらえ、訴えてきました。
- 東京同窓会の強化策、会員増大策、魅力づくりには決め手はありません。役員が心をひとつにして、コツコツと強化策に取り組んでいけば、必ず発展拡大するという確信のもとに行動しております。
- 未熟な私を諸先輩のご推挙により、会長に就任させていただきました。責任の重さを感じると同時に、会員の意見を聞きながら、どういう考えのもと、「何をどうすればよいのか」試行錯誤しながら基本方針を確立し、組織全体の活動に目くばりを行ってすすんできました。
- 基本方針は、次の通りであります。

- 1 会長として率先垂範。一生懸命に取り組む。
 - 2 人間関係を良好なものにするため、「和」を大事にする。
 - 3 公私混同しない。清潔な活動のもと、同窓会の利益を第一とする。
 - 4 役員の公平な人事で適材適所。
 - 5 効果的な計画づくりと活動の重視。
 - 6 P D C A サイクルで組織管理。
 - 7 改革改善の推進。
 - 8 財政基盤の確立。
 - 9 規約規程の整備。
 - 10 会員の拡大と結束の強化。
 - 11 母校貢献策の検討。
 - 12 役員候補者の発見と配置。
 - 13 後継者育成。
 - 14 総会成功策の検討。
 - 15 山形本部との連携。
 - 16 広報の強化・充実。
- これまでの取り組みを点検すれば、まだまだ未到達、未達成の事項が多く、今後の取り組みの強化が必要であると痛感しています。
- 東京同窓会も若い有能な方々が次々と役員に就任し、熱心に活動しております。若い諸君がこれまでの基本方針を継承し、更に内容充実に発

異業種から 学びたい



山形南高同窓会
会長 佐藤 充彦

毎年十月になると東京同窓会の総会が開かれ、関東、東海地方で活躍いただいている皆様とお会いすることを楽しみにしています。

同窓会としての絆を確かめると共に、首都圏の最新の情報が得られるからです。

私は、山形で開かれる同窓会総会や各地域で開かれる総会に出席して感じることは、同窓会は力のある異業種の集まりだと云うことです。

仕事をしていて行き詰まったとき、「異業種の方の小さなヒントが問題

展させてくれると思っています。

今後は、時代と状況に合った体制をつくり、強固な東京同窓会を築き、新しい歴史を築いてくれるでしょう。

みんなで心をひとつにして、東京同窓会を支え、頑張っていこうではありませんか!

「山形南高東京同窓会は不滅なり!」

を解決し、新しい分野の開拓を進めることが出来た」と云う話しをよく耳にします。異業種の方々は自分とはまったく違った発想で情報をとらえていることが多く、大変参考になります。

東京同窓会では、一昨年から総会で「ビジネス交流企画」を実施され、社会の第一線で活躍している南高卒業生たちが自分が携わる業界の最新情報を発表していますが、これは大変意義深い企画だと思っています。「一昨年は「チェーン店出店のお話」

「忍び寄る相続税、無駄な税金から」

東京オリンピックに 本校の卒業生が 出場することを願って



山形県立山形南高等学校
校長 佐藤 政士

山形南高東京同窓会の皆様方には、日頃から本校の教育活動に對しまして、多くのご支援とご指導をいただき誠にありがとうございます。

さて、今年の南関東高校総体(インターハイ)には、本校から陸上部、

逃れるには、昨年は「高齢化社会におけるマンシヨンの実態」「ネットを快適に使うコツ」など、いずれも生活に直結した内容の発表が行なわれました。今年はどうのようになりポートが行なわれるのか注目しております。

山形南高同窓会には、それぞれの分野にすばらしい人材がそろっています。集まって親睦を深めるだけでなく、胸襟を開いて可能な範囲で情報の交換を図ってはどうかと思っています。小さなヒントを交換して交流を活発化させるのも同窓会の貴重な役割ではないかと考えています。

ボクシング部、バドミントン部からそれぞれ2名並びにレスリング部及び体操部からそれぞれ1名の8名が出場しています。中でも陸上の千五百メートルでは、遠藤陽太君が8位入賞を果たしました。また、文化部でも書道部が茨城で行われた全国高等学校総合文化祭に参加しました。

他にも、バスケットボールの前田悟君がドバイで開かれたU-17の世界選手権に日の丸を背負ってチームのキャプテンとして参加しています。また、同じバスケットボール部の尾形祐甫君と本校教員の細谷尚寿先生がU-18の日・中・韓の大会に選手・コーチとして参加しました。南高から、東京で開催されるオリンピックに出場できるよう頑張つて欲しいと願っているところでもあります。さて、昨年度の本校の進学実績は、

国公立大学への現役の合格者数は百六十八名と過去五年間で二番目の成績でした。また、国公立の難関大学への合格者数は、山形大学医学部医学科一名、東北大学九名、名古屋大学一名の合計十一名と目標の三十名には届きませんでした。今年度は、さらなる難関国公立大学への合格者数の増加も目指し、目標を達成できるように努力して参りたいと思います。最後に、先輩諸兄の御健勝と本同窓会の益々のご発展を祈念するとともに、本校への変わらぬご支援をお願いして挨拶いたします。

八海山から越後米沢 街道經由高畠へ

南高3回卒 吉野 禮三

昨年の会報に「ロープウェイ登山」という雑文を寄稿し、その中で「次回は八海山へ行こうかと車の手配を娘夫婦にささやいている」と書いたので、自分のメモのつもりで書き留めておこうと思ひPCに向かっている。カメラ友達が、新潟県東松山町の棚田で米つくりを始め、もう5年ほどになる。農家を口説き落として休耕田を借り受け、仕上げは天気干し。これには我が家の「つや姫」も、たじたじである。

一昨年春、山菜採りの時期にお邪魔したら、山荘の主は山形市出身のプロカメラマン橋本紘二さんで、手

作りの山菜料理でもてなしてくれた。彼は写真集も多く、農村文化協会をバックに、多くの作品を世に送り出している。

山形人を名乗れば、どこにでも山形人が現れ、友達が増える。

八海山の中腹まで登つたら、彼らの松之山が俯瞰できるのではと実は期待したのだが、天候は奇跡的に回復し、視界がきくようになったものの、ロープウェイからは眼下に六日町盆地、その先が魚沼丘陵で、たかが50キロ先と思つたのは、地形を知らない関東平野からやつてきた都会人の、勝手な思い込みでした。

山頂部が八つの峰からなり、そこから八海山と言われるようになったそうだが、最高峰は入道岳(1778m)で、いわゆる岩峰群である。NHK大河ドラマ「天地人」のタイトルバック映像に、山頂に立つ直江兼続をご記憶の方も多いいのではないだろうか。我々はロープウェイの終点山頂駅(1147m)、いわゆる4合目半でおしまひ。ここからは、八海山の雄姿を拝することはできなかった。去年登つた志賀高原の横手山は、スカイレーダー/ロープウェイ山頂駅は2305mであった。

この夜は、新潟県の北端瀬波温泉に一泊、ついで子供の頃よく連れて行つてもらつた、庄内の湯の浜温泉や温海温泉を思い浮かべるのである。お盆休みで余つたような花火が、元氣なく打ち上げられ、旅情をくすぐる。翌朝は早めに宿を出て「越後米



「沢街道」へ向かう。

この街道は、今から約500年前に置賜地方から越後に通じる街道として、伊達14代の種宗(たてむね)によって大里峠が開かれ、江戸時代に上杉藩になってから、現川西町の「小松」から現新潟県関川村の「下関」ルートが完成し、この中に13の峠があるため、「十三峠」と呼ばれるようになった(越後米沢街道・十三峠ホームページ参照)。中でも黒沢峠の敷石道の復元は、地元民やボランティアの方々の敷石の発掘作業のたまものである。

明治11年に東日本を行脚したイサベラ・バードや、多くの旅人を偲びながら、我々は一路ハイウェイを、「アジアのアルカディア」と称した米沢盆地を目指した。

米沢城の秘宝館を後に、北口を出ると、堀はハスの花で一面埋め尽く

されていた。その先に亡き父の実家があり子供の頃よく遊びに行つたと子供や孫たちに話すと、小走りに走って見に行つたが、その家はすでになかった。

山形―出羽の歴史を子供や孫に伝えるには、高島をはじめとする、米沢盆地こそ最もふさわしい。手元にある、山形県立うきたむ風土記考古資料館の、第16回企画展記念誌『出羽の国ができるころ』によると・・・

まほろば古の里、歴史公園の敷地や米沢盆地には、7世紀後半から8世紀全般にかけて営まれた、飛鳥・奈良時代の安久津古墳群やその他の遺跡、また墳墓があり保存されている・・・

山形盆地や庄内平野は遺跡が大変少なく、この時期に建国された出羽の国の様子が大変わかりにくい。律令国家に組み込まれていく当時の山形県の歴史説明が遅れている・・・

舟形出土の「縄文の女神」は、ようやく国宝に昇格したが、旧山形県人としても、まだまだ長生きして、山形の歴史が解明される日を待ちたいものです。(2014年9月 彼岸記)

私の故郷山寺

南高11回卒 高井貞太郎

山寺は山形と仙台の境に位置し、宝珠山立石寺という天台宗の寺院を総称して山寺と呼んでいます。昭和七年に文部省から「名勝及び史蹟」

に指定され、今も凝灰岩からなる奇岩の間に多くの堂宇が点在しています。山門から奥の院までは100段もの急な階段に汗を流さなければなりません。

平成25年には薬師如来坐像の50年に一度の御開帳が有り、大勢の参拝客が訪れていました。

写真のように立石寺境内には根本中堂、日枝神社、立石寺本堂、奥の院と大仏殿があります。

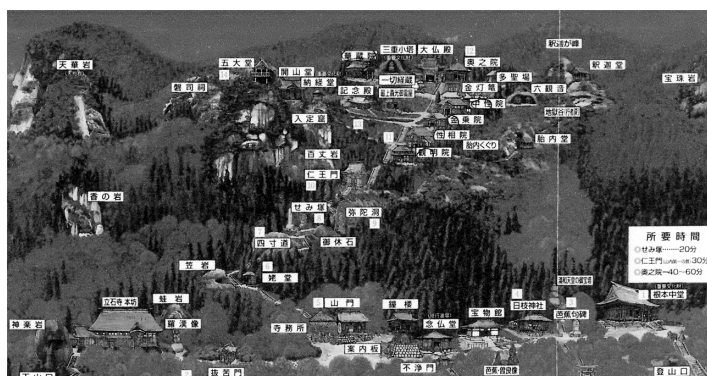
松尾芭蕉が元禄2年(1689)奥の細道をたどり、今の7月13日に山寺を訪れた際に歌われた句が「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」で、山寺の観光地の目玉として寄与しています。

山寺の開山は古く、貞観2年(860)、天台宗の僧、慈覚大師(円仁)によると伝えられています。また山の中腹にある、五大堂から眺める、四季おりおりの景色は、素晴らしいものがあります。

国の重要文化財に指定されている根本中堂は歴史が古く、何回か改修され昭和の大改修で現在の姿に復元されたものです。他にも国の重要文化財の三重小塔(永正16年)や県指定文化財の納経堂などがあります。山内には在住の塔中寺院と呼ばれる四つの寺がのこっています。

また自然の岸壁や露出岩を利用して、魔崖供養碑が、参道の至る所にみられます。こんな素晴らしい環境の下で育つたのかと改めて感じました。今後は、もっと山寺の歴史を深く紐解いてみたいと思いました。

こんな素晴らしい環境のもとで育つたわりには自分は、山寺の歴史そのものを良く理解してなかったのは残念です。今回は、山寺のほんの入口が解かっただけです。今後はもっと深く勉強してゆく予定です。



ある日の出来事

南高12回卒 市村 好廣

ホンビノス貝という貝が、最近クローズアップされていると初めて知ったのは、先日、旧知の同期生K氏からの突然の電話を受けたときでした。「ホンビノス貝は旨いらしい！テレビでみたので試食したい！」



貝が採れる船橋海岸に近いとの理由で、隣の市川に住む我が家へ電話をかけたとのことでした。この貝は外来種で、最近、潮干狩りで大量に捕獲されつつあるとのことでしたが、こちらには、全く寝耳に水でした。翌日好天でしたので、あちこち回って回りました。昼過ぎ船橋の三番瀬という潮干狩場まで、潮風に吹かれてウオーキングしました。

直売所初め、船橋市内で買えるとのことでした。駅周辺を廻りましたが、漁協が言うほど一般的な商品ではなく、最後の魚屋で初めて出会いました。流通はまだまだ少ないようで、1個100円(税込)で、バラで売られていました。内産のハマグリ、アサリに比べると大幅に安いのでしょうか、ちよつと躊躇しつつ、試食用に3個だけ買って帰りました。家に帰ってお吸い物にして食べました(写真)が、いいダシが出て美味しかったです。身はハマグリより歯ごたえがあり、アサリ汁に比して、のつべりした感じでした！

翌日、前日の情報をもとに、9時過ぎに、船橋漁協直売場に行きました。数人の客がいるのに暇そうに突っ立っている店主に聞くと、「人気がないので置いてない」とのことでした。近くの船橋中央卸売市場のガラーンとした広い場内を、今流行の「ふなっしー」のようにアチコチうろつきまわりました。「ホンビノス貝を探しているのですが」と、駐車場で店を開いている魚屋や、後片付け中の5〜6軒の親父連中に聞いて回りました。「扱ってないよ」、「朝はあつたが、今はないよ」、「今日は入ってないね」、「もっと早く来れば、あるかも」などの答えが返ってきました。ある親父は、「あそこの積み置きネットに、数キログラムあるよ」と言って持主のところ案内してくれましたが、持主は「卸し用だから、小売りはしないよ」とそっけない返事でした。「場内でたらいまわしているのだ。」と思いました。最後に、一軒だけ開店中の「おばはん売り子」に声を掛けるところ、隅っこから発泡スチロール箱に入った貝を持ってきました。1kg600円とのことでした。すぐに宅配便業者に持ち込み、高い荷代で、買ってしまいました。一日遅れの発送になりましたが、約束を果たし、一息つきました。イヤハヤ。

「身近な薬用植物あれこれ」その2 乳癌手術に用いた薬草 花岡青洲の「通仙散」

南高12回卒 奥山 徹

紀州出身の外科医・華岡青洲は世界で初めて、乳癌の摘出手術に成功しました(江戸時代)。手術には鎮痛・麻酔薬が必要で『華岡青洲の妻』にも見られるように、涙ぐましい種々の実験を繰り返しながらも、「通仙散」(曼陀羅華、草烏頭、天南星、当帰、センキュウ、ビヤクシ)の6種の薬草を組み合わせた全身麻酔薬の創製に成功しております。「通仙散」に組み込まれている薬草には、山形県内でも見られる植物もありますので、本誌でその一部を紹介いたします。「天南星(てんなんしょう)」はサトイモ科植物の総称です。マムシグサやウラボシマソウ等の球形を、鎮痛・鎮痙・去痰・消炎薬などとします。最も普通に見られるマムシグサは、茎に黒紫色の斑があり、花は蛇が首を持ち上げた様子を連想させます。秋に熟した赤い果実、塊茎は喉などに炎症を起こすので、服用には注意が必要です。含有成分としては、サポニン、粘液物質のほか有毒物質を含みます。「曼陀羅華」はナス科のチョウセンアサガオ(朝鮮朝顔)です。多くの品種があり、春から秋にかけて白、ピンク、黄色、紫色などのトランペットに似た花を咲かせます。中国の医学書『本草綱目』には、患部を切開する際、熱酒に混ぜて服用させれば苦痛を感じないとの記述が見られます。アルカロイドのアトロピンやヒヨスチアミンを含み、副交感神経の遮断作用があり、鎮痛剤に用いられます。なお、華岡青洲が乳がん手術に麻酔剤としたことから、日本麻酔学会は花を学会のマークにしております。トリカブト(草烏頭)は、晩夏から秋に咲く濃紫色、あるいは黄色や白花の品種もあります。全草に毒性の強いアルカロイドを含むことから、ヨーロッパではオオカミを殺す毒薬、またはサソリの毒を消す妙薬とし、チベットでは起死回生の薬物・強壮剤として利用しております。日本でも、毒殺に関する話題が沢山残っております。しかし、漢方では塊根「白



トリカブト



ウラシマソウ



チョウセンアサガオ

「附子」を減毒(修治)して、強心作用・鎮痛作用を期待する方剤、桂枝加朮附湯や八味地黄丸などに欠かせない妙薬です。

山形ではニリンソウと間違った山菜事故が何度か起こっております。山菜にまつわる食中毒は別の機会に報告します。

明治薬科大学名誉教授・理事



(写真はNHKで紹介された番組から引用)



同窓会を 思うにあたって

南高12回卒 加嶋 隆夫

山南東京同窓会の初参加は、確か二〇〇二年だったと思います。それで私が参加する迄の経緯について話してみたいと思います。

私が、とある大学に入って卒業し、それからとある会社に入り、その後は次に述べます土地を転々と移動しました。その間結婚も2回程やり、もちろん会社も色々変わりました。ようやく25年位前に現在の江東区に落ちついたわけです。

大学は水戸から始まり、日立市に3年、卒業後東京は板橋から岐阜市、福岡市それから又東京に移動し、千葉の船橋市、その後埼玉の草加市へ移り(その時、実母の死亡がありました)、最後に現在の江東区に転居した次第です。

この様な状況から、私の居所を関係者の方々が把握する事が非常に難しかったものと思われれます。そんな中で、私の住所が同窓会の名簿に載ったのは、あるきっかけがありました。

中学校(山形市立第二)の同級会が、平成14年にありまして、その時の一人が12回生の方だったので、その方が山形の12回同窓会に連絡してくれまして名簿に載る事になりました。同時に、東京同窓会の住所録にも

載せていただき、それ以降案内状がくる様になり、ずっと今日迄参加するようになったわけです。それと並行して、12回東京同窓会も毎年2、3回開催しています。

そこで、私自身を同窓会や同級会に参加してみたいと駆り立てたものは、一体何だったのかを考える中で、本題のテーマになった次第です。

参加、不参加の理由については、個々に色々な事情があるわけで、何とも申し上げられませんが、自分とは云うと、同郷の方々との再会や母校への想いを共有出来る唯一の場所と思うし、自分の存在意義を確かめ得る場として、参加を続けてきています。

年と共に人恋しく、人懐かしく、人との係わりを一層強く意識する年齢になってきています。自分もつと素敵な人生をエンジョイする為にも、すばらしい仲間めぐりある場としての同窓会が、ずっと続くことを願っております。又自分の生き様を、同窓会を通して、今後の人生のライフワークとして、見続けていきたいと思えます。

お釈迦様の 生誕地を尋ねて

南高12回卒 毛利 昭

仏教の開祖者である釈迦(ゴダマ・ジツダルタ)が生を受けたのは

ネパール南部に位置するルンビニと言う村である。ネパールと言えばヒマラヤ山脈を抱える高山国との感を持つたれる方が多いが、その南部はインドと繋がり、亜熱帯のジャングルに覆われた地域も存するのである。

インドとの国境に近いこの村では、ヤカ族の王子として生を受けた彼は、将来を有望される立場にあったが、領民の貧しさや社会の不安を目にして出家の道に入ったと言われている。我が国でも彼の誕生日とされる4月8日は「花まつり」として、甘茶をかけてのお祝いが行われている。生まれてすぐに右手で天を差し左手で地を指さし「天上天下唯我独尊」と声を発したという立像に甘茶をかけて祝う行事は、お釈迦様への変わらぬ人気を示す行事として今に伝えられている。

霧が派生しやすい地形のため、フライトキャンセルが日常的に発生するため、予備日の確保は必須である。我々の飛行機も8時間の待機が命ぜられ、現地入りは夕刻となり、穴だらけの道路を通って「ルンビニホテル・カサイ」に着いたのは夜であった。日本人の笠井という方が私財をなげうって建設したもので、いまだに地域の高級ホテルとして知られている。広大な敷地の中には池が配され、そこには大型の鯉が泳ぎ、敷地内を巡る1Kmにも及ぶ散策路が設けられている。そこを歩けば、ホテルで使用する無農薬野菜が育てられ、リネンや浄水の施設のほか、車両の

修理工場や従業員の宿舍までが建てられており、一つの村を形作っているようでもあった。

更に驚いたことには、設置されているトイレが、水洗浄によるものであった。いわゆるウォッシュレットと呼ばれる洗浄方式は、日本で考案されたもので、国内では広く行き渡っているが、これまで欧米を含む海外で目にしたことはなかった。まさか、世界の最貧国と言われるネパールで目にするとは思わず、感嘆してしまった。

元国連事務総長ウ・タント氏などの呼びかけで、1978年に釈迦の生誕地の周辺を聖地公園として整備する「ルンビニ釈尊生誕地聖域計画」が立案された。日本の建築家丹下健三氏がマスタープランを作成したと言われる広大な敷地の中には、釈迦の生誕の地とされるマヤー堂やアシヨカ王の石柱が組み込まれ、それを囲むように世界の国々から寄贈された寺院や仏塔が建設されている。

釈迦が生誕した地に残る遺跡は、当時を彷彿とさせる建築方式を再現した建物で覆い囲われている。そして沐浴に使ったと言われる沐浴池やアシヨカ・ピラーと呼ばれる石柱が建っている。

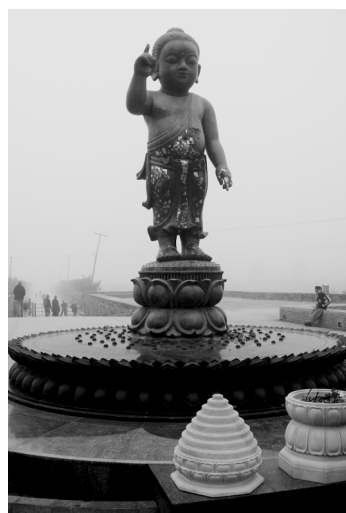
素足での巡礼が決まりとのこと、靴を脱いで石畳の上に立てば、凍えるような冷たさが伝わってくる。その様な軟弱な観光客に配慮してか、歩道の上には、麻で編んだ絨毯が敷き詰められてはいたが、その冷たさを

を忘れさせる程の効果はなかった。

覆われた建物の中には、往時のマヤー聖堂の基礎や壁面が、発掘時のまま残されていた。順路に沿ってその回廊を辿れば、「生誕像」と呼ばれるレリーフが埋め込まれている場に辿り着く。そこには、釈迦と母マヤーを支えるように手をさしのべる、義母マハーブラジャティの像が残っている。それらの像を祀った石積みの壁面には金箔が塗られ、薄暗い光を受けて淡く光っていた。何でも巡礼の人たちが金箔を手にし、像のレリーフや石積みに塗り込んで行くとのことである。

寺院に隣接して沐浴池があり、その奥に巨大な菩提樹が聳えている。幹周り10mはあろうかと思われるその樹は、四方に枝を伸ばし、その下にタルチョヨが結ばれていた。その菩提樹を背に、幾人かの偽坊主(多分)が修行僧よろしく座して瞑想している。その僧に幾ばくかのお金を支払えば、念仏を唱えながら、手首に紐を巻いてくれる。

旅の安全や健康を祈願するものとのことだが、自然に切れるまで、ハサ



ミなどで切ったり、ちぎってはならないとのこと、3ヶ月以上の長きにわたって私の手首に巻かれていた70歳を過ぎた老人が、若者よろしく手首にサミンガを巻く姿は、滑稽でもあったであろうし、恥ずかしいものでもあった。

付近には、琵琶湖に匹敵する規模を誇るチトワン国立公園があり、象の背に揺られてのサファリも楽しめる。絶滅危惧種と呼ばれるベンガル虎や、ガビアルと呼ばれるワニの生息も確認できるとのことである。多少の体力と好奇心がある方にはお勧めのコースである。

また自慢話を少々

南高14回卒 佐藤 守彦

突然ですが、皆様の中で大相撲を



両国国技館の正面審判長の後ろの溜席(つまり)席(通称 砂がぶり)、で観戦された方はいらつしやいますか。恐らくマス席ならいらつしやるでしょうが、老生が座った席は皆無とされています。

溜席とは、土俵下の四方の審判員のすぐ後ろの席から始まり、300席有り大相撲の後援団体や、130万円以上寄付した個人や法人に割り当てられる、いわゆる維持員(溜会)だけの指定席です。

この席は(特に老生の席)ネクタイ着用、飲食禁止、カメラもダメ、土俵が近いので力士が落ちて来て怪我した時の為、保険も掛けられています。写真をご覧ください(少々古く、平成25年一月場所の六日目)、松ヶ根審判長の左の二人目、横綱日馬富士の土俵入りで、日馬富士と睨み合っている禿げ頭が老生です(因みに、右後ろの白髪が老生の古女房です)。



ではなぜ300席もある溜席、しかも特等席に、という事ですが、実は老生が会長をしている拓大レスリング部の先輩で、老舗の中澤乳業の会長で中澤軍治という方がいらつしやり、大相撲をテレビで観戦していると、必ず審判長の横に映っているの、一度先輩の席で観戦したいですね、と言ったら直ぐ手配してくれ、しかも古女房の席も確保してくれました(写真まで手配してくれました)。

最後に明かしますが、何と中澤先輩の曾祖父が、第七代目横綱稲妻雷五郎なのです、その関係で現在出羽の海部屋の後援会長をしております。この様な方を先輩に持ったお陰で普通の人は座れない特等席で人生で初めて素晴らしい経験をさせてもらったわけです。

アメリカ出張所に赴任してからまずやる事は、ドライバーライセンス(以下D・L)を取る事でした。そのD・Lが大事なIDカードにもなり、家を借りたり、車を借りたり出来るからです。

日本の運転免許証は、日本中どこでも通用しますが、こちらでは通用しません。現在住んでいる州のD・Lが必要で、従って、別の州に引っ越せば、またその州のものが必要で、車のナンバープレートもその都度、その州のものに付け替えます。営業用長距離トラックなどは、通過するすべての州のナンバープレートを付けなくてはなりません。従って、

海外体験記 アメリカのドライバー ライセンス編

南高28回卒 奥山 俊一

もう一枚の写真ですが、去る6月末、世界選手権、アジア大会出場を兼ねた全日本選抜選手権に、拓大の特任教授になった横綱白鵬関が観戦に駆けつけてくれた時のもので、そのお陰で拓大関係者が5名出場権を獲得しました。

以上、大した自慢話でないことを恥じらいも無く書いてしまいました。終わりまで読んで戴き感謝申し上げます。 合掌

車のフロントに3〜9枚程のプレートをつけるはめになり、日本では見慣れない光景です。

ところで、アメリカでのD・L取得は、非常に簡単です。日本と違い、意地悪な落とすための筆記試験ではありません(但し、すべて英語ですが)。実地試験を受けるために、自分の車で運転して試験場に行くわけですが、これって無免許運転? いいえ、これが当たり前なのです。というの、自分の車の助手席に試験管が乗り込み、路上試験が始まるからです。「ゴウ、ストレイト」「ターン、ライト」「ターン、レフト」などと、試験管の言いなりに運転します。しばらく運転して終了です。着くなり、「パーフェクト」と言われました。合格です。

アメリカで運転していて、最も気をつけなければならない事があります。それは、黄色いスクールバスがフラッシングライトを点滅して停車した時です。子供たちが、まさにバスから乗降する時です。

車道のすべての車は、停止です。子供たちが道路を渡り切るまで、待たなければなりません。通常、スクールバスの後ろに、白バイが1台ついて目を光らせています。ライト点滅中に、車が少しでも動いたら、すぐに白バイが飛んで来ます。厳重注意の上、違反切符を切られます。この切符は、かなり重い罰則です。

幸い、アメリカでも、違反切符を切られる事はありませんでした。

集 東京同窓会・総会参加者及び 特 同窓会会員「増」対応策の検討

南高15回卒・幹事

滝口 成一

はじめに

「朋遠方より来たる有り、
亦楽しからずや」(學而第二)

同じ校舎で共に学び、共に語り合
った仲間組織「同窓会！」。

「声高らかに校歌、応援歌を歌お
う！」

「共に語りあい励ましあおう！」

「同窓会の火を消すことは絶対に
あつてはならない！」(斎藤会長)
を合言葉に、役員一同、総会参加者
増並びに会員増について、鋭意対応
策を検討、実施して参りました。

しかしながら、他校の同窓会と同
様、我が山南東京同窓会もご多分に
漏れず、会員の減少傾向が続いてお
ります。

この状況を少しでも打開すべく、
多々検討すべき対応策の中から「同
窓会名簿」を利用した現状につい
て分析・検討した結果の一部を、当
「会報誌」の紙面をお借りし、公表
させていただきますこととしました。
個人情報への抵触、外部へ公表す

べき内容か、等々に細心の留意を払
いました。一方的、且つ甚だ勝手な
お願い事になりますが、皆様には現
状をご理解いただき、総会参加者増
会員加入者増へのご協力と、更なる
同窓会発展への一助をお願いする次
第です。

なお、ある会員様より事務局に寄
せられた「総会参加費の差異」等に
ついてのご意見も、検討結果は割愛
させていただきますが、役員会で取
り上げ、討議されたことを付け加え
ます。

さらに、当記事は「役員会」へ提
起された資料を基に、今回統計分析
に当たった筆者が、加筆修正を行っ
たものであり、表現等に曖昧な点や
問題提起的な部分があることをご容
赦願います。

I 平成22年～平成25年総会

(計4開催分)データ分析(Ver.1)

H22年からH25年まで開催された
過去4カ年の総会出席者数等のデー
タについて分析を行った。
以下に特記事項を記す。

1 総会開催年度別集計

□過去4年間 集計

総会 開催年	総会 出席者数	会費のみ 納入者数	計		各年毎総会 出席者割合 (%)	各年会費 のみ納入者数 割合(%)	(計の割合)
			出席者数	割合			
H22年総会	86人	242人	328人	28%	26%	74%	28%
H23年総会	80人	247人	327人	28%	24%	76%	28%
H24年総会	75人	202人	277人	24%	27%	73%	24%
H25年総会	54人	176人	230人	20%	23%	77%	20%
計	295人	867人	1162人	100%	25%	75%	100%
平均	74	217	291	25%	25%	75%	25%

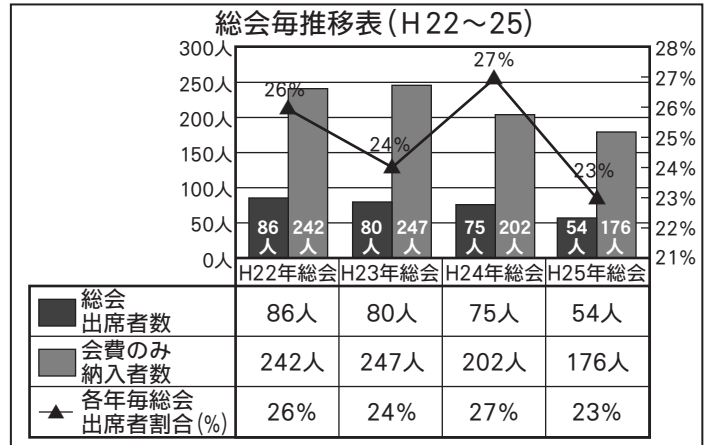
(1) 【総会・参加者(出席者)】
H22年総会「総会出席者数(86
名)」をピークに、年を追う毎に
減少傾向であることが読み取れる。

(2) 出席者数の最大数(H22年・86
名)と最小数(H25年・54名)を
比較すると、実に「32名・減」に
もなっている。

●検討事項

- ① 総会出席者の「減少傾向」の要因
はどこにあるか。
- ② 歯止め対策、参加者増対策は、何
が考えられるか。

総会毎推移表(H22～25)



③ 出席者の年齢構成に変化があるの
か？

④ 参加費用を減らした効果はあつた
のか？参加費用差異、金額につい
ても再検討が必要ではないか。

【会費のみ納入者数】

(1) H23年が「会費のみ納入者」が
247名と最大数となり、その後は減
少傾向にある。

(2) H25年(最小数176名)との差は
71名。2年で71名が減少したこと
になる。金額にすると約14万円で
ある。

●検討事項

- ① 会費のみ納入者の減少の要因は何
処にあるか。

②歯止め対応策は何が考えられるのか？

2 過去4回総会開催・通年で
集計

過去4回総会の皆勤会員数は25名。会費のみ全年度納入者会員数は52名であり、やはり「減少傾向」にある。また、継続参加者も同様である。歯止め対応策は？

II 昨年度(H25年)データ分析

同窓会会員名簿登録者数^{1,759}名のうち、今回は、昨年度(H25年度)「総会参加者及び、会費のみ納入者」のデータを元に分析を行った。

1 分析

□分析対象 人数(件)

H25年度総会 (昨年)	①総会出席者会員	54人
	② 会費納入のみ 納入会員	176人
	計	230人
全体比(230/1759)人		13%

以上から・・・総会案内レター送付での効果は以下の通り。

1 総会出席者割合

(1) 54名/174通

(2) 案内レター効果率≒3%
年会費・納入者割合
(176+54)名/174件

案内レター効果率≒13%

以上から、現行の総会「案内・出

2 総会出席者及び会費のみ納入者の年代別人数と割合

(1) 年代別割合(表A::横比率)

年 代		出席者数		年会費のみ 納入者数		計	
80歳代~	80歳以上	4	8%	44	92%	48	100%
70歳代	70~79歳	30	31%	68	69%	98	100%
60歳代	60~69歳	8	16%	42	84%	50	100%
50歳代	50~59歳	8	33%	16	67%	24	100%
40歳代	40~49歳	3	33%	6	67%	9	100%
30歳代	30~39歳	1	100%	0	0%	1	100%
20歳代	20~29歳	0	0%	0	0%	0	100%
計		54	23%	176	77%	230	100%

(2) 年代別割合(表B::縦比率)

年 代		出席者数		年会費のみ 納入者数		計	
80歳代~	80歳以上	4	7%	44	25%	48	21%
70歳代	70~79歳	30	56%	68	39%	98	43%
60歳代	60~69歳	8	15%	42	24%	50	22%
50歳代	50~59歳	8	15%	16	9%	24	10%
40歳代	40~49歳	3	6%	6	3%	9	4%
30歳代	30~39歳	1	2%	0	0%	1	0%
20歳代	20~29歳	0	0%	0	0%	0	0%
計		54	100%	176	100%	230	100%

席要請」は、出席者増への効果は限定的(薄い)。費用対効果↓と言える。なお、過去に実施された「電話勧誘」策も、増には(余り)結びついていないと推察される。何が原因で増えないのか、再考する必要がある。(注) 転居等で宛先不明会員もおり、会員総数と案内状発送数とは不一致

右記の表から

① 総会出席者、及び会費納入者とも「70歳代」が多くを占めている。

それは何故なのか。

② 表Aから

「出席者数≒C」「年会費のみ納入者数≒D」とし、比較を行うと
C・D ≒ 54・176 ≒ 23%・77%

過去年も同様であるので、(当面)

「会費のみ納入者」への「総会出席」要請を行うことで、総会出席者増を計ることが、期間的にも、労力、「経費削減」の面からも、取りうる対策とも考えられる。

③ 目標人数(案)

昨年参加者の確保(54名)

+ 年会費のみ納入者数の「4割(70人) ≒ 124名

(↓124/54≒2.3倍...これだけでも

昨年出席者の2.3倍)

勿論、会員への公平性等々を考慮すべきであるが、予算・経費枯渇状態であることをも考慮し、しかるべき対応策が求められる。

3 総会出席者及び年会費納入者の「居住地」分析

居住地	総数：A (B+C)	内 訳		比 率	
		総会 出席者数：B	年会費 のみ納入者：C	出席率 B/A	寄付率 C/A
茨 城 県	6	2	4	33%	67%
埼 玉 県	36	8	28	22%	78%
神奈川県	52	9	43	17%	83%
千 葉 県	43	13	30	30%	70%
長 野 県	1	0	1	0%	100%
栃 木 県	6	1	5	17%	83%
東 京 都	85	21	64	25%	75%
静 岡 県	1	0	1	0%	100%
人 数	230	54	176	23%	77%

前頁(分析結果の一部のみ掲載)集計結果より

- (1) 「総会出席者・年会費のみ納入者」の「居住地」上位3は以下の順
 - ① 東京都 …… 85名
 - (内出席者数 21名 25%)
 - ② 神奈川県 …… 52名
 - (同 …… 9名 17%)
 - ③ 千葉県 …… 43名
 - (同 …… 13名 30%)

当3県だけでも「会費のみ納入者」は137名にもなる。このことから、総会出席者への継続参加・要請と会費のみ納入者への総会参加要請に限定した総会への出席勧誘だけでも出席者増が計れると経費節減の観点から考えられる。

なお、勧誘対象者である「会費のみ納入者」の「年齢」にも留意する必要があるが、該当者の年齢は「県別・卒年・一覧」(後述…一部抜粋)より類推されたい。

4 「総会出席者」と「年会費のみ納入者」の「居住地」集計

勧誘の際の一助となるよう、以下に「県別」「地域別」の「総会出席者・年会費のみ納入者」一覧を示す。次表から「同地域・居住者」での総会員数、及び、出席、欠席(会費のみ納入)者数を把握出来る。

【居住地別分析結果・一部抜粋】

神奈川県	在住会員数 52人	総会出席者数 9人	会費のみ納入者数 43人
横浜市	25	5	20
横須賀市	4	1	3
厚木市	1	0	1
鎌倉市	1	0	1
座間市	1	0	1
秦野市	2	0	2
逗子市	1	0	1
川崎市	9	2	7

注) データの一部抜粋(のため合計値不一致)

【特記事項(一部のみ掲載)】

- ① 横浜市 …… 総会出席者数(5名) + 会費のみ納入会員数(20名) = 25名
 - ② 川崎市 …… 総会出席者数(2名) + 会費のみ納入会員数(7名) = 9名
- のように「区、市」によって

* 「会費のみ納入者」のみ
* 「会費のみ納入者」が多く、かつ「総会出席者数」が少ない

等々が散見され、可能であれば、その「原因・理由」を特定し、同地区に居住する方を紹介することで出席者増へ繋がることにはならないだろうか?

勿論、勧誘時に、個人情報?公開等については、公開是非をも含め、細心の注意が必要である。
注) 勧誘時、同地域に居住する方の情報開示は問題ないかも検討したい。

5 地域(別)毎の「卒年別会員数(内訳:総会参加者数・会費のみ納入者数)」

これにより「同期が出席しないことによる出席減(欠席)・理由」等を解消し勧誘時の(参考)資料に資する

【居住地(県別)分析・一部抜粋】

年齢	卒業年度		総数	内 訳			茨城県 6名		埼玉県 36名		神奈川県 52名		千葉県 43名	
	総数	卒年		出席者	年会費	比率	出席者	年会費	出席者	年会費	出席者	年会費	出席者	年会費
	230		54	176	23%	2	4	8	28	9	43	13	30	
89	中1	S20	1	0	1	0%								
88	中2	S21	3	0	3	0%						0	1	
87	中3	S22												
86	中4	S23	6	0	6	0%				0	1	0	1	
85	中5	S24	3	0	3	0%	0	1						
84	高1	S24												

こととする。

【特筆事項】

- (1) 総会出席者
 - 最高齢者 81歳(南2)
 - 最小年齢 32歳(南51)
- (2) 会費のみ納入者
 - 最高齢者 89歳(中1)
 - 最少年齢 同

↓ 総会参加者の最少年齢が32歳(南51)であることから、若い方々の総会参加の勧誘方法(参加会費軽減策)の再検討が必要である。

注) ・山南高は、「旧制中学」を前身とするため卒業年度に中1等が標記。
・年齢は昨年時点での表記。

集計結果から
82歳(南1)〜89歳(中1)の方々で「会費のみ納入会員」は30名にも上り、また、80歳〜89歳での「会費のみ納入者会員」は44名であり、実に「会費のみ納入者」全体の「1/4」を占める。

44名/176名(全会費のみ納入者数) = 25%

↓ 母校を思い「会費のみ納入者」の高齢の方々全体への「御礼」、「感謝」を何らかの形で、表すことが必要ではないだろうか?

III まとめ

分析結果から、今後検討されるべき課題等は以下に整理される。

- 1 何故70歳代の参加者、及び会費納入者が多いのか？当要因分析から、他年代参加者・会費納入増対策のヒントが得られないだろうか？
- 2 過去に実施された「参加要請葉書」「電話勧誘」の効果が薄かった理由と原因の分析。(本年も電話作戦を行う必要性はあるのか、また工夫はあるのか？)
- 3 総会案内状等の考慮(工夫)総会案内状等の内容と同封するもの検討
 - 同じ案内文言でなく、「継続出席(御礼と)再参加依頼」「会費納入感謝文面」等の工夫と宛名を文面に書く
 - 会報送付時の鑑(感謝文面)添付(本年実施済…&継続)
- 4 経費節減対策
 - 総会案内状を全員へ送る必要性についての再検討。
 - 総会案内状/東京同窓会報誌の送付対象者の再検討の必要性はあるのか？
- 5 総会イベント(追加案)
 - 最高年齢者出席者の紹介と祝い

品贈呈。

古稀(70)、喜寿(77)、傘寿(80)、米寿(88)、卒寿(90)

参加者の紹介と祝い品贈呈。

6 表彰等の検討

- ① 過去5カ年「皆勤者・氏名公表」と「粗品贈呈(除・役員)」
- ② 過去5カ年「会費のみ納入者・氏名公表」と「礼状送付」
- ③ 母校を思い「会費のみ納入者」の高齢の方々に対し「御礼」、「感謝」を、何らかの形で、表すことが必要ではないだろうか？
- ④ 寄付者の管理を行い、多額？の寄付者(通算寄付額?)へ感謝状等、何らかの対応が必要ではないだろうか？

7 「継続参加しない理由(途中で不参加)」と「会費のみ納入者で総会参加しない理由」(人数調査要・割愛)の調査と対応策立案。

注) 継続参加理由の調査が、参加増への勧誘に繋がらないだろうか？

8 勧誘時、同地域に居住する方の情報開示の程度は？また問題ないのか？

9 総会参加者の最小年齢が32歳(南51)、若い方々の総会参加勧誘方法(参加会費軽減策)の検討が再度必要である。

IV 今後のアクション

1 検討事項等の対応要否の検討と決定

- 一部を本文へ記載(参考例として)

2

2 勧誘案の検討と対応

- (1) 他勧誘案(H.P.活用等)をも勘案し、検討を行い、本年の勧誘策案を決定する。

(2) 各役員毎の勧誘対象地域等の「割り当」作成と勧誘の実施(当案採用のとき)

3 アンケートの実施

- (1) 【出席する理由、または、出席したい(出席したくなる)理由】
 - (2) 【欠席する理由、または、欠席したい(欠席したくなる)理由】
- の把握と分析が必要。この理由を把握しない限り、改善策、効果的な手は打てないと考察される。

V 結び

H.P.の活用、運動部・文化部等の部活の活用、電話による勧誘等々、これまでも「勧誘・増員」の対策を図って参りましたが、この減少傾向の根源、つまり

- ・「総会欠席・会員未加入」の「種々の理由(ワケ)」を正確に把握が

出来ていない

ことが、これまでの対策(施策)の限界であり、マト(的)を射た、有効な施策立案に結びついていないと思われまます。これからも「会員に加入したい」、「総会へ参加したい、してみたい」と思えるような施策の検討も継続してまいります。

とは言え、憂いてばかりで手をこまねいてはいただけません、現時点で「やれるべきこと、やれること」を走りながらでも、役員一同討議を重ね対応して行く所存です。

また、総会不参加者の声として「知人が居ないから、参加しても話す相手が居ない。」「知らない人中では、苦痛である。」「事前に卒業年度での参加者数を知ることが出来ないだろうか？」「若い人が少なく、年配の方々のために同窓会がある。」等々の言葉も寄せられており、数字からは知り得ない、多々の要因が複雑に絡まっています。

分析データの少なさから、これまで述べてきた推論や対応策に、妥当性があるのかとの懸念や、分析結果の(一部)公表へは異論もあるうかと存じますが、役員会での了承のもと、細心の注意を払い公表に踏み切りましたことを改めて述べさせて頂きま

す。

当公開が今後の同窓会発展の一助になることを切に祈るものです。

【出会いはキット・新たな感動が皆さんを待っています！】

(文責)滝口・IBMリタイア

柏市在住)



総会と2回目のビジネス交流

～ビジネス交流企画～

**南高卒業生が語る
ビジネス講演2013**

高51回卒 會田 耕介さん (囲碁部OB)
高43回卒 押切 孝雄さん (剣道部OB)

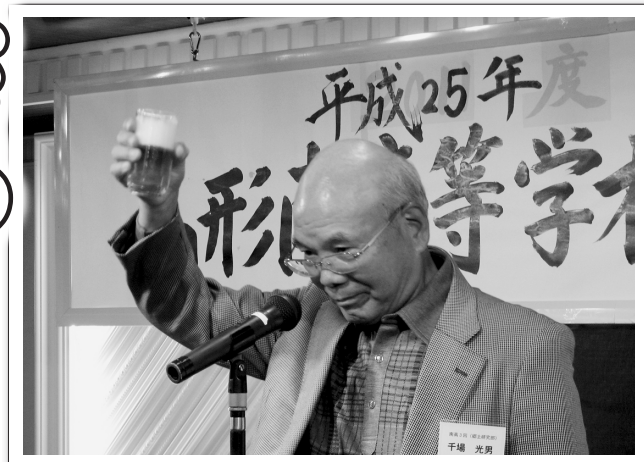
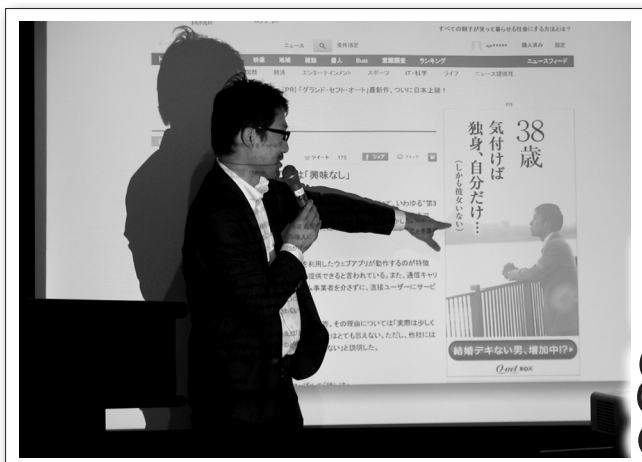


都道府県別マンション化率(2012年)

- 東京都の場合
世帯数6,390,020、マンション戸数1,630,730
⇒マンション化率=25.52%(4世帯に1世帯。全国1位)
- 山形県の場合
世帯数401,201、マンション戸数6,228
⇒マンション化率=1.55%(64世帯に1世帯。全国45位)

(2013年1月30日リリース 株式会社東京カンテイ)





山形から駆けつけてくださる

平成25年度会計報告

山形南高東京同窓会 平成25年度 収支決算書

<収入>

(単位：円)

項目	H25予算額(A)	H25決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
総会会費	580,000	407,000	△ 173,000	男性@7,000×55名、女性@5,000×3名
年会費	600,000	490,560	△ 109,440	@2,000×246名(振込手数料控除後)
寄付金	70,000	137,424	67,424	総会来賓祝金ほか
広告協賛	100,000	101,000	1,000	
雑収入	0	105	105	預金利子
前期繰越金	309	309	0	
合計	1,350,309	1,136,398	△ 213,911	

<支出>

(単位：円)

項目	H25予算額(A)	H25決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
会場使用料	40,000	0	△ 40,000	総会会場、来賓控室は懇親会経費に計上
懇親会経費	546,000	514,085	△ 31,915	飲食費等
会議費	65,000	76,356	11,356	役員会・学年幹事会の会場料、弁当代等
総会案内経費	265,000	401,594	136,594	
議案書印刷経費	125,000	0	△ 125,000	総会案内経費に計上
事務費	75,000	66,937	△ 8,063	消耗品代、郵送運搬費、会報発送料、振込手数料等
東京同窓会会報	205,000	226,720	21,720	
ホームページ制作費	5,000	4,240	△ 760	
活動費	20,000	47,060	27,060	本部総会広告協賛、本部総会祝金、本部同窓会出席旅費
予備費	4,309	0	△ 4,309	
合計	1,350,309	1,336,992	△ 13,317	

次年度繰越(収入合計-支出合計) : △ 200,594 円

山形南高東京同窓会 特別積立金 平成25年度 収支決算書

<収入>

(単位：円)

項目	H25予算額(A)	H25決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
前期繰越金	461,660	461,660	0	
寄付金	0	0		
合計	461,660	461,660	0	

<支出>

項目	H25予算額(A)	H25決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
母校貢献策	0	0	0	
一般会計への補填	0	200,594	200,594	
合計	0	200,594	200,594	

次年度繰越(収入合計-支出合計) : 261,066 円

◇平成25年度に寄付をいただいた寄付の内訳

・来賓祝い金	40,000 円
・会員寄付	26,000 円
・斎藤会長	42,060 円
・新年会出席者	14,580 円
・役員会	14,784 円

26年度役員紹介

会長	齋藤 常男(南高5回)
副会長	毛利 昭(南高12回)
副会長	小松栄三郎(南高15回)
監査	久連山幹彦(南高10回)
監査	加嶋 隆夫(南高12回)
常任顧問	浅黄 優喜(南高4回)
顧問	会田 雄亮(二高2回)
顧問	森谷 享(南高1回)
顧問	土屋 裕司(南高2回)
常任幹事	平澤 一宏(南高10回)
常任幹事	有海 豊(南高11回)
常任幹事	佐藤 守彦(南高14回)
常任幹事	滝口 成一(南高15回)
常任幹事	鈴木 淳一(南高25回)
常任幹事	村岡 登(南高25回)
常任幹事	杉本 俊夫(南高28回)
常任幹事	峯田 淳(南高28回)
常任幹事	我孫子雅敏(南高29回)
常任幹事	笠原 健(南高34回)
常任幹事	山田 健嗣(南高36回)

齋藤会長、母校に図書費30万円を寄附！

齋藤常男会長は、5月母校を訪れ、生徒の図書のためにと、30万円を寄附された。

佐藤政士校長は、「図書費の予算は年々削られており、大変感謝しています。通常買えない本や、小論文に役立ちそうな書籍等も含め、生徒に読ませたい本をたくさん購入したいと思います。」と、電話取材で話された。

お世話になります

東京事務所勤務の南高卒業生

齋藤 正明(南高30回卒)	3年目
小関 啓幹(南高40回卒)	2年目
同窓会主担当	
高橋 裕(南高40回卒)	1年目
漆山 敬人(南高44回卒)	4年目

平成25年度物故者

平成25年9月13日以降
26年8月30日判明分まで
敬称略

神保 啓吉先生 実習助手 (S 37・4 H 9・3)	25・9・28
加藤 稔先生 書道 (S 53・4 H 63・3)	25・12・24
鈴木 俊六先生 英語 (S 49・4 H 3・3)	26・3・18
高橋 宗伸先生 国語 (S 56・4 H 63・3)	26・8・22
(同窓会員)	
〔二中卒〕	
2・3回卒 小川 欣一	26・2・7
4回卒 内海 吉弥	26・6・11
〔二高卒〕	
2回卒 今野 秀孝	26・7・12
2回卒 多田 文雄	26・4・?
〔南高卒〕	
1回卒 田瀬 裕一	26・5・25
2回卒 加藤 稔	25・12・24
元文化部OB会長・旧職員	
56回卒 佐藤 州洋	26・8・18
46回卒 柏倉 貴史	26・2・8
45回卒 遠藤 和司	25・10・25
40回卒 鎌田 秀樹	26・5・20
22回卒 仲島 栄治	26・5・8
21回卒 矢萩 俊寛	26・2・6
18回卒 安喰 敬	26・5・14
15回卒 須藤 憲一	26・1・21
元剣道部OB会会長	
15回卒 石山 愿	26・5・6
14回卒 大場 治男	25・10・?
14回卒 石川 俊彦	26・5・13
12回卒 水越 一郎	25・8・31
12回卒 佐藤 宗克	26・?・?
12回卒 大沼 信武	25・11・3
11回卒 黒田 信也	26・7・29
11回卒 草苺 信也	26・1・10
11回卒 小野 豊	25・11・30
9回卒 土谷 忠	26・7・5
9回卒 丹野 光曹	25・12・26
8回卒 結城 守	25・12・5
8回卒 原田 充明	26・4・17
7回卒 太田 章	25・10・?
7回卒 遠藤 詰男	26・1・27
6回卒 海藤 進	26・8・9
4回卒 八鍬 繁	25・10・?
3回卒 豊島 文男	26・8・16
3回卒 武田 和之	26・6・22
3回卒 篠崎 則夫	26・4・10
3回卒 小鹿小一郎	25・10・17
2回卒 菊地 弘	26・3・22

来年の原稿募集

原則として700字前後。
内容に関する写真も歓迎。
原稿切 27年8月31日。
メールでの寄稿歓迎。



eizaburou@mug.biglobe.ne.jp

〒286-0011 成田市玉造4-34-2
小松栄三郎宛て

山形南高東京同窓会 ホームページのご案内

URL:<http://yamanan.jp>



平成20年2月に正式公開
新ホームページ 平成23年6月に公開
(旧ホームページは平成23年12月31日で終了)
HPの担当: 村岡 登氏 (南高25回)

協賛広告募集中

お問い合わせ
info@yamanan.jp

メールアドレス登録のお願い

総会のご案内をより効果的に行うため、関東在住の卒業生のメールアドレスの登録をお願いするようになりました。登録は下記アドレスから行うことができます。ご登録いただいたメールアドレスは、総会の案内にのみ使わせていただきます。今後の同窓会のさらなる発展のために、ぜひご協力下さい。将来広報の電子版をお送りすることも検討しておりますので、登録するアドレスは、できるだけPCアドレスをお願いいたします。アドレス管理責任者: 小松栄三郎 (15回卒)

<http://www.yamanan.jp/>

(上部中央の「メールアドレス登録受付中」のバナーをクリックして下さい。)

篤志家のご寄附の お願い

東京同窓会の活動費のためにご寄附下さる方々を募集しております。
郵便局の次の口座までご送金下さいませようお願い申し上げます。
口座名: 山形南高等学校同窓会東京支部 口座記号番号: 00110-7-581420



今年度は、平成22年度から25年度まで、4回の総会に出席された方々、及び同期間に会費を納入された方々の状況を滝口成一氏(常任幹事・元IBM社員・南高15回卒)に分析していただいた。出席者の名前と年齢、出席回数、居住地別等、この種の調査としては本格的なものであり、その分析は、今後の同窓会の発展に極めて有益な指針になると思われる。
今回の総会案内にも、同氏の提案が早速生かされ、複数のタイプの総会案内を出すことができた。
同窓会活動は、10年20年の単位で考えるべきものであり、日頃の地道な活動によってのみ存続できるものである。そのため、今回の調査結果が今後に着実に生かされるよう、一人ひとりの参加が期待される。
(南高15回卒
小松栄三郎)

編

集

後

記

新年会(平成26年2月7日)

